

市政ニュース

「お湯よし 人よし 眺めよし」を3万人が体感！

たんたん温泉福寿の湯の入湯者3万人達成！

11月20日、たんたん温泉福寿の湯(但東町坂野)の入湯者が3万人に到達しました。

3万人目となったのは、姫路市からグループで訪れた齋木孝夫さん。カニを食べるに香住で一泊され、出石の皿そばを堪能された帰りに、但東で案内看板を見て、初めて来館されました。



▲記念品を受け取る入湯者3万人目となった齋木さん夫婦

齋木さんには、くす玉割りに続き、施設設置者の中貝市長から記念の花束やコシヒカリ30キロ、温泉回数券、盛りだくさんの新鮮野菜などの記念品を贈呈しました。

祝福を受けた齋木さんは「まさか自分が3万人目になるとは思いもよらず、びっくりしました。ラッキーな1日です。車に積めるかな」と笑顔で話していました。

中貝市長は「予定より1カ月半も早く入湯者3万人を達成でき、うれしく思います。3万人目となった齋木さんもゆっくり温泉を楽しんでください」と話しました。

同館は、地域の活性化を図り、但東北部地域の交流・情報発信拠点となるよう、今年7月28日にオープンした施設です。地域住民を中心とした個人や事業所などで設立された運営管理組合が運営し、来館者を温かく迎えています。皆さんも、美人の湯といわれるこの温泉に、ぜひ、お越しください。

豊岡市除雪隊発隊式 除雪シーズン到来！市民の暮らしを守ります

12月1日、本格的な冬到来を前に除雪体制を整えるため、豊岡市除雪隊発隊式を市役所前駐車場で行いました。

市では、積雪深15センチ以上になると、早朝から市道の車道611・4キロメートルと歩道96・8キロメートルを、市と委託業者の除雪車126台で除雪作業に当たります。

発隊式には、業務に当たる本庁の除雪隊員(都市整備部職員)約60人が参加し、ざらりと並んだ除雪車の前で中貝市長から訓示を受けました。

市長は、「今シーズンも市民の日常生活を守るため、心に余裕を持って、丁寧に除雪を

お願いします。体に気を付けて頑張ってください」と除雪隊員を激励しました。

市民の皆さんも、除雪作業がスムーズにできるよう、協力をお願いします。



▲市長から訓示を受ける除雪隊(都市整備部職員)

広域ごみ・汚泥処理施設整備 基本協定を締結しました

12月2日、広域ごみ・汚泥処理施設建設地の地元区である竹野町森本区、坊岡区と但行政事務組合の三者で、施設整備に当たっての基本協定を締結しました。

この協定書は、施設を整備するに当たり、環境の保全に

配慮し、先進的な環境創造の取組みを図ることや、情報公開の徹底を図ることなど、基本的な取組みを内容としています。

今後、組合は、この協定内容を守り、安心・安全な施設整備を進めていきます。

〈主な市政の動き〉

- 〔11月〕
- 16日・竹野カニカーニバル
- 18日・新庁舎建設市民検討委員会報告書提出
- 20日・たんたん温泉福寿の湯の入湯者3万人達成
- 21日・仲田光成記念豊岡竹野全国かな書展(24日)
- 野口 健と環境問題を考える講演会・国府の宝をみがこう・環境フォーラム(22日)
- 23日・室伏広治トークショー・カニ王国開国式
- 〔12月〕
- 1日・豊岡市除雪隊発隊式
- 第5回市議会定例会開会(19日)
- 2日・広域ごみ・汚泥処理施設整備に係る基本協定締結
- 3日・新庁舎建設基本構想(案)市民説明会(城崎総合支所)
- 6日・新庁舎建設基本構想(案)市民説明会(じばさん但馬)
- 8日・市民ふれあいのつどい
- 山陰海岸ジオパークが日本ジオパークに認定
- 9日・中国江西省の農業産業化研修団視察来市(11日)
- 12日・新庁舎建設基本構想(案)市民説明会(竹野総合支所)
- 13日・小児救急セミナー

植村直己冒険賞受賞者の野口 健さんが来市

環境問題はみんなが主役 自然という宝を大切に

11月21日と22日の2日間、2007年植村直己冒険賞受賞者の野口 健さんが来訪しました。

1日目は、植村直己さんの母校の府中小学校児童と一緒に「国府の宝をみがこう」と題した清掃活動を行いました。当日、学校を出発した児童たちは、普段何げなく見ていた神社や公園の素晴らしさを、国府地区公民館の皆さんから聴きながら清掃し、日高町上

郷の円山川河川敷で野口さんと合流。その後、河川敷や河畔林を清掃し、廃タイヤ、空き缶など、軽トラック2台分のゴミを回収しました。

野口さんは「ゴミを減らさなければ」と思っているだけでは改善されません。行動に移すことが必要です。恵まれた自然、この宝を大切にしましょう」と話していました。また、この日の夜は、豊岡市民プラザで環境問題について



▲府中小学校児童と一緒に清掃する野口さん

での講演を行ったほか、翌日22日には、豊岡南中学校で開催した市内中学校の生徒代表者との環境フォーラムで、環境問題について、自身の経験を交えながら、今、何が大切かを投げかけていました。

室伏広治トークショーを開催

夢の実現には自分で考え判断することが大切

11月21日、アテネオリンピックピックメダリストで、北京オリンピックでも活躍された室伏広治さんと、ミズノ(株)専務取締役で、国際オリンピック委員会ミズノ契約責任者である、香美町香住区出身の上治丈太郎さんを迎え、「夢を追い求めて」をテーマに「室伏広治トークショー」を日高文化体育館で開催しました。

当日は、みぞれ交じりの悪天候にも関わらず、600人

を超える来場者で、会場内は熱気に包まれました。室伏さんは、室伏さんのことも、オリンピックのことも知り尽くした上治さんを聞き手とし、自身の練習風景などの映像も交えながら、夢の実現には、自分で考え判断することが大切であると話しました。

また、室伏さんは、陸上競技に関する質問だけでなく、競技を離れた質問にまで丁寧に答え、「抱きしめて」とお願



▲質問者と握手する室伏広治さん

いする女子高校生や、2階席から握手を求める男子高校生などの要望にも気軽に応じるなど、温かい魅力に包まれたトークショーとなりました。

中見市長の徒然日記 ⑬

再び、ジオパーク

冬本番となりました。雪は日常生活には厄介なものです。が、実は暖かいものです。

冬、シベリアからやってくる、上空でマイナス30度、マインナス40度という寒気団が対馬暖流から大量の水蒸気を立ち昇らせ、その水蒸気が冷やされて落ちてくるのが雪です。

雪が降るとこの仕組みがなければ、日本の野山はもっと冷たい寒気団に直撃されて、ひとたまりもありません。植物にとつて、体を包んでくれる雪は、ある意味、暖かい毛布なのです。

約2千5百万年前、日本はアジア大陸の東の端にへばりついていました。そこから約1千万年かけて大陸から離れて中緯度になり、日本海ができ、対馬暖流が日本海に流れ込みました。そして、日本の多様な気候風土と生物層が出来上がりました。冬に日本海側に大量に降る雪は、太平洋側の晴天をもたらすだけでなく、夏にも枯れることのない

豊かな水となり、動植物を養います。雪は天然のダムだと言う人もいます。

もし日本海が誕生していなければ、今ごろ私たちは日本語ではなくロシア語を話し、日本酒ではなくウオッカを飲んで口から火を噴き、極寒の冬に震えていたはずですよ。

山陰海岸ジオパークは、日本列島形成と日本海誕生のドラマがテーマですが、それによつてもたらされた、季節の変化がはっきりした日本の気候風土とコウノトリに象徴される生き物の多様性も大きなテーマです。ジオパークまでがコウノトリにつながるというのは、さすがです(笑)。

山陰海岸は、世界ジオパークへの第1回の推薦からは漏れましたが、日本ジオパークの一員となることができそうです。今後、関係地域の連携を一層強めて、世界ジオパークに認定されるよう頑張ります。

